

The prevalence of oral symptoms caused by Rosaceae fruits and soybean consumption in children; a Japanese population-based survey.

出典	Allergol Int 2020;69(4):610-615 (https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/32444307/)
著者	Sasaki M et al.
調査地域	全国 47 都道府県における 625 小学校、276 中学校
調査時期	2015 年
調査対象	小学校 1～2 年生 中学校 2～3 年生
依頼数	小学生 50392 人 中学生 51442 人
有効回答数 または回収率	小学生 81.9% (41264 人) 中学生 68.6% (35302 人)
診断方法	独自の質問票
有症率	バラ科果物/大豆による口腔症状は小学生 0.99%、中学生 2.75%
調査概要	全国 47 都道府県の小中学校を介した質問紙式調査で、小中学生のバラ科果物/大豆による口腔アレルギー症状の頻度を検討している。